

平成26年度北九州市決算の概要について

一般会計決算

○決算規模は、歳入、歳出ともに2年ぶりの増

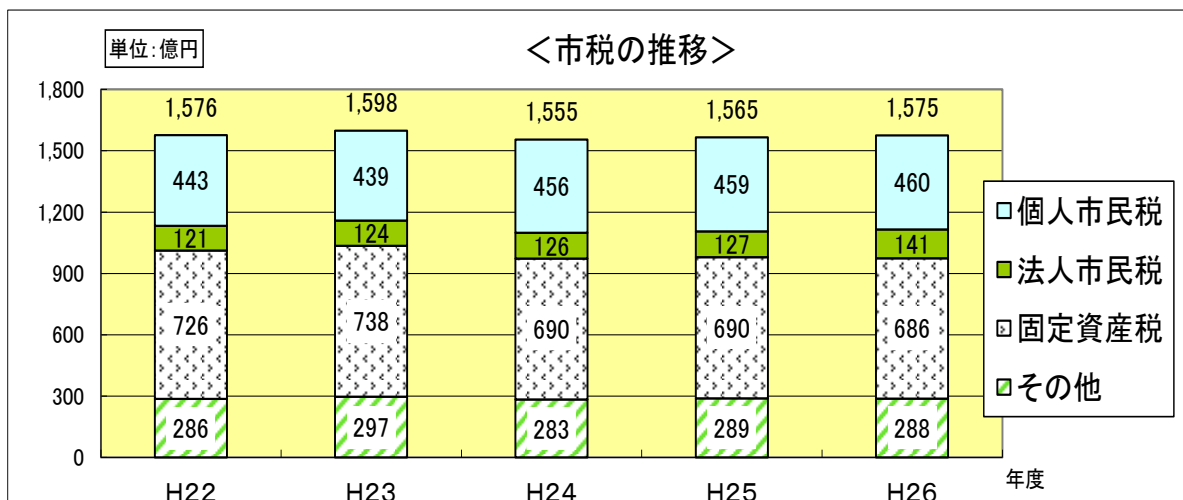
○実質収支は16億2800万円で、昭和42年度以来48年連続黒字

区 分	2014年度	2013年度	増減額	増減率
歳入決算額(A)	518,898	512,228	6,670	1.3%
歳出決算額(B)	514,129	508,849	5,280	1.0%
形式収支 (C=A-B)	4,769	3,379	1,390	41.1%
繰り越すべき財源(D)	3,141	1,966	1,175	59.8%
実質収支(E=C-D)	1,628	1,413	215	15.2%

(単位：百万円)

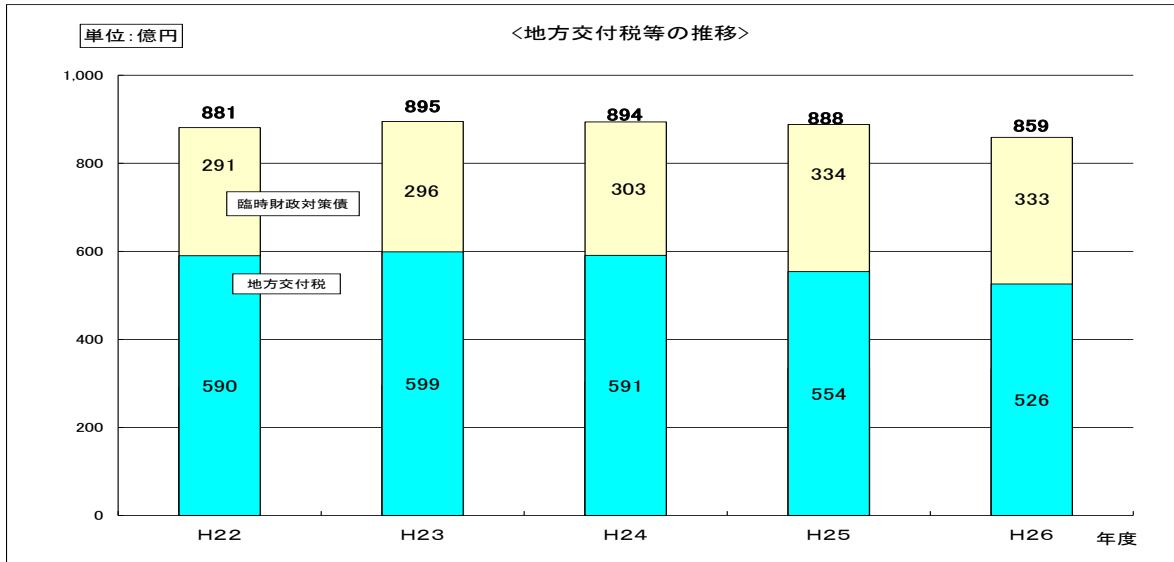
○市税収入

1,575億55百万円（対前年度比10億円の増）



○地方交付税、臨時財政対策債

地方交付税は前年度を下回り、臨時財政対策債は若干の減。

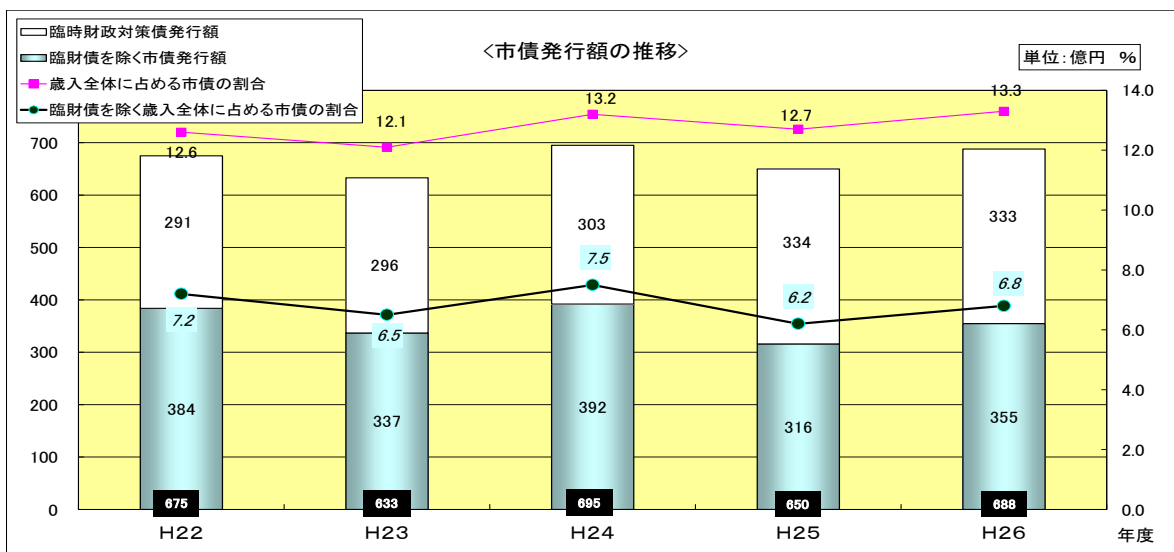


■臨時財政対策債・・・国の地方交付税への財源不足対策として、平成13年度に創設された地方債。

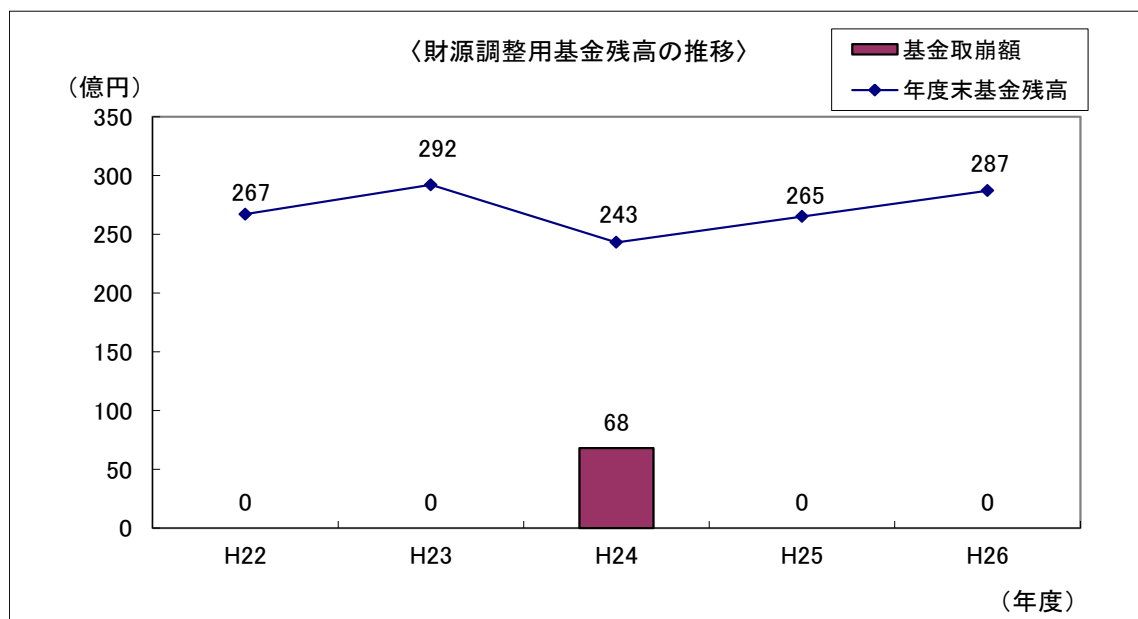
その元利償還金相当額については、全額が後年度地方交付税で措置される。

○市債発行額

355億3千万円で、臨時財政対策債（後年度、国から全額交付税措置）を除き、対前年度39億円の増。

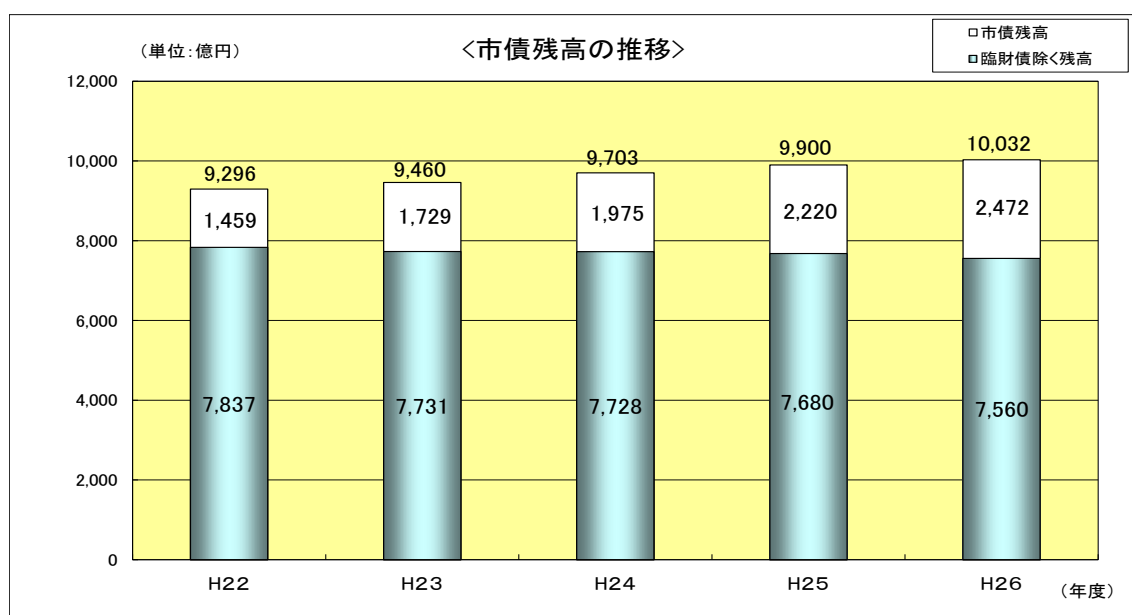


○財政調整用基金は取り崩さず、22億円増の287億円に。



○市債残高

臨時財政対策債を除く市債残高は、7,560億円（前年度比120億円の減）。臨時財政対策債を含めた市債残高は、1兆32億円で前年度比132億円の増



特別会計決算

- 会計全体で実質収支は、149億66百万円の黒字
- 実質収支22会計中19会計（国保、競輪競艇、駐車場等）が黒字、
- 3会計（公債償還、土地取得、臨海部産業用地貸付）は収支ゼロ

企業会計決算

- 平成26年度末の資金剰余は5会計とも黒字
- 損益収支は、5会計中、工業用水道事業、下水道事業が黒字で、
上水道事業、交通事業、病院事業の3会計が赤字

(単位:百万円)

区 分	上水道事業	工業用水道	交通事業	病院事業	下水道事業
損益収支	△ 438	115	△ 633	△ 939	332
単年度実質収支	263	34	△ 73	757	△ 88
平成26年度末資金剰余	5,053	1,741	1,643	4,294	2,883

収支改善効果 45億円

- 歳入 13億円 外郭団体からの出資金の返還等10億円
特別会計の剰余金の活用3億円
- 歳出 32億円 職員数の削減等人件費の見直し15億円
事務事業の見直し17億円

国が定めた<健全化判断比率等>をすべてクリア

※「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」による

- 実質赤字比率、連結実質赤字比率 実質黒字のため比率なし
- 資金不足比率 資金不足を生じた会計がないため比率なし
- 実質公債費比率 11.8% (対前年10.5%) 適用基準以下
(地方債許可制移行基準18%、早期健全化基準25%、財政再生基準35%)
- 将来負担比率 174.3% (対前年169.3%)
(早期健全化基準400%)